

土方巽生誕九十年記念

病める舞姫―踊りと語り

客演: 小林嗟峨・谷川俊之

日時: 9月4日(火) 16:00~17:30

会場: 秋田県立美術館・県民ギャラリー

入場料: 1,000円

秋田の身体・舞踏公演 2018

出演: NPO土方巽記念秋田舞踏会会員十公募生

助成: 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: 慶応義塾大学アートセンター特定非営利活動法人鎌鼬の会

後援秋田県・秋田市・各教育委員会、秋田県芸術文化協会秋田魁新報社、

ABS秋田放送・AKT秋田テレビ・AAB秋田朝日放送・エフエム秋田

秋田県民文化芸術祭2018・参加事業 beyond 2020プログラム認定事業



同時開催: 写真谷口雅彦「病める舞姫完全写真化計画」9月1日~8日

主催 NPO土方巽記念秋田舞踏会 連絡先: 090-9209-7967 (大村田)

Email: hijikata-akita@live.jp 〒010-0917 秋田市泉中央1-11-4 (米山方)





土方巽

1928年秋田市生まれ、秋田工高卒。日本独自の身体表現である舞踏の創始者として世界的に知られる。1946年、秋田市駅前にあった増村克子(江口隆哉門下)モダンダンス研究所で学び、1947年初めて上京。1959年に三島由紀夫の小説をベースにした「禁色」を発表し、舞踏家として新たな身体表現を切り開く。代表作は「肉体の叛乱」「四季のための二十七晩」「静かな家」「ばら色ダンス」など。「病める舞姫」「美貌の青空」「犬の静脈に嫉妬することから」など関係する著書も多い。後進の育成にも力を入れ、磨赤兒、田中涙、和栗由紀夫、玉野黄市、芦川洋子、小林嵯峨、山本萌ら数々の舞踏家が土方のもとを巣立っていった。1986年、57歳で死去



小林嵯峨

1969年より、土方巽に師事。活躍。芦川洋子、和栗由紀夫、玉野黄市と共に、舞踏創成期のすべての土方作品に出演、土方巽の代表作「四季のための二十七晩」「静かな家」にも出演、「婚儀大踏艦」「白桃房」結成メンバーであり、独立後も休みなく作品を発表し続けている。2017年、秋田市での舞台は土方巽から初めて脚本、演出を受けた「村一番ガフガフとした男に嫁いでいく花嫁」。「九日生少年に捧ぐ～眠り菓子」をなるべく当時の状況に近い形で再現した。



2018年練習風景

秋田の身体舞踏公演

「四季・病める舞姫」

原作 土方巽
企画 「秋田の身体」
音響照明 曾我 傑
振付指導 小林嵯峨
演出、舞台監督 曾我 傑
出演

舞踏:大森恵子、kanna.kai.jones、今野日音琉
佐藤あゆ美、佐藤正和、佐藤みつ子
朗読:梁田恵一、山川建夫、堀井貴和子

小林嵯峨舞踏ワークショップ

日時: 9月3日(月) 19:00~21:00

会場: にぎわい交流館AU3F

参加費: 2,000円 パフォーマンス工房 定員20名

秋田の身体

2016年5月土方巽没後30年企画和栗由紀夫舞踏公演「四季・病める舞姫」の舞台に参加した者が集まり、2017年10月には、雪雄子指導により、初の秋田の身体公演を行った。今年度は、秋田の参加者が主体となって、作品を創り、発表する。2013年から土方巽記念秋田舞踏会で行っている朗読、舞踏ワークショップから学んだ事を取り入れ、秋田に生きる人間が、自分たちなりの舞踏を創り上げる。2017年10月22日に急逝した舞踏家 和栗由紀夫氏への追悼の意味を含めた作品である。各章からランダムに抽出し再構成してお届けします

NPO土方巽記念秋田舞踏会

2013年3月結成。会員35名。舞踏の創始者・土方巽を秋田の郷土誌土方研究の風土の中で再評価し、土方研究の上で空白となっている秋田市在住時代を明らかにするために「病める舞姫」の解説を進めるとともに、資料の発掘、収集を行い、舞踏公演、月例会などのイベントを定期的開催している。

<http://ja-jp.facebook.com/hijikata.tatumi.akita/tips>